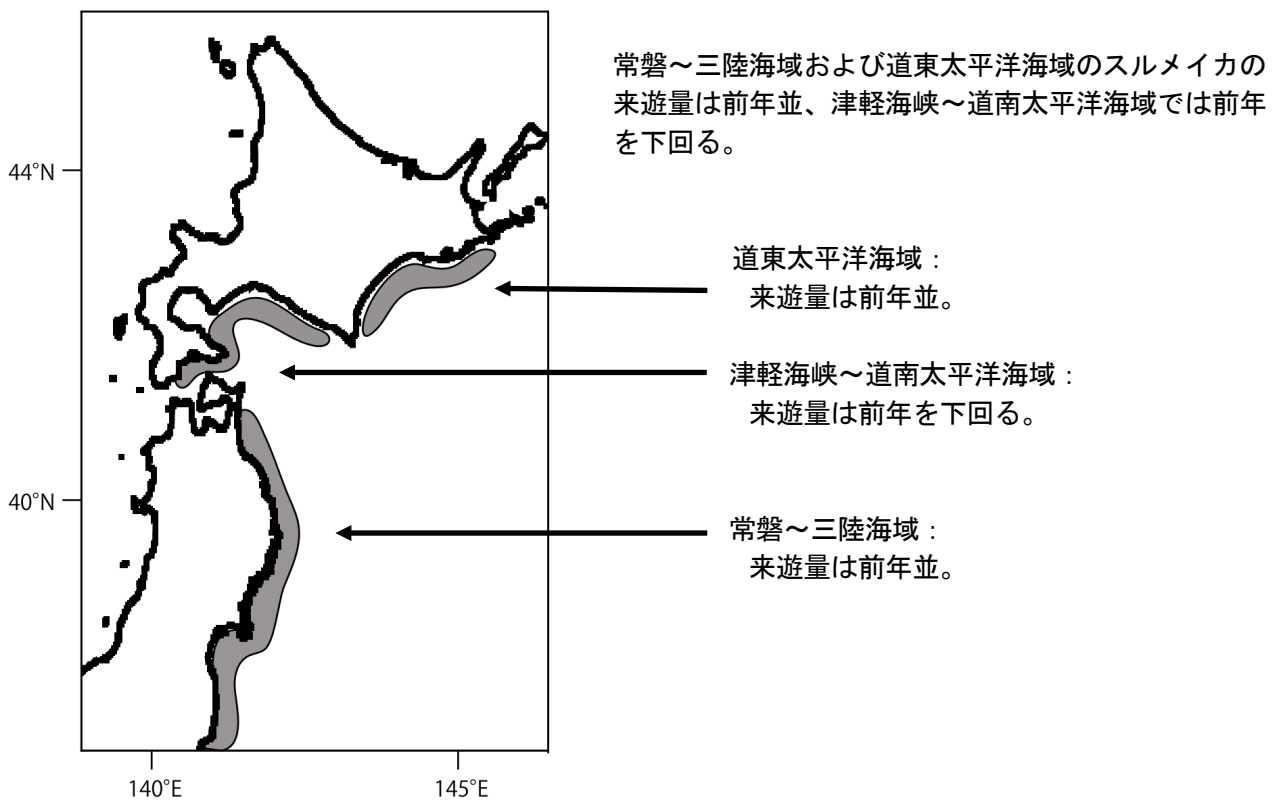




2024年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2024年8月~9月)のポイント



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：漁況：浮魚資源部（横浜）大島、松井
電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

2024年度 第1回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2024年8月～9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域

対象漁業：小型いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2024年級群）

1. 常磐～三陸海域（小型いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域（小型いか釣り、定置網）

(1) 来遊量：前年を下回る。

(2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

3. 道東太平洋海域（小型いか釣り、底びき網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期・漁場：漁場形成は散発的で、明瞭な主漁期は無い。

I 予報の説明

2024年5月下旬～7月上旬に実施した太平洋及び日本海のスルメイカ漁場一斉調査と日本海スルメイカ北上期調査¹⁾の結果(図1～3;以降、上記調査をいか釣り調査と総称する)、および5月～7月までの漁況経過(表1)を主要な情報として8月～9月のスルメイカの来遊量を予測した。その結果、以下の通り、常磐～三陸海域および道東太平洋海域は前年並、津軽海峡～道南太平洋海域では前年を下回ると予測される。なお、前年8月～9月の漁獲量は、常磐～三陸海域では近年5年(2019年～2023年)平均並、津軽海峡～道南太平洋海域と道東太平洋海域では近年5年平均を下回った。

¹⁾ 北海道立総合研究機構函館水産試験場が独自に実施。

1. 常磐～三陸海域(小型いか釣り、底びき網、定置網、まき網)

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群れを主体に、津軽海峡を通過して来遊する日本海由来の群れが一部含まれると考えられる。三陸周辺海域(41°N以南、143°E以西)におけるいか釣り調査は、前年同様漁獲が無かった。各地域における5～6月(一部7月上旬²⁻⁴⁾)の漁法別の水揚量は、前年を上回った地域と下回った地域があったが、常磐～三陸海域全体では前年並の水揚量があった。以上のことから、太平洋沿岸域を北上する群れの来遊量は前年並と予測される。6月中旬～7月上旬に日本海の津軽海峡西口周辺海域(39°N～42°N、138°E～140°E)で実施されたいか釣り調査でのCPUE(いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数)は前年を下回ったため、日本海由来の来遊量は前年を下回ると予測される。以上の調査結果、およびこれまでの漁況の経過から、常磐～三陸海域への来遊量は前年並と予測される(前年の漁獲量は近年5年平均並)。

²⁾ 漁業情報サービスセンターによるスルメイカ漁況・市況情報を基に集計。

³⁾ 岩手大漁ナビ(<https://www.suigi.pref.iwate.jp/>)による市況データを基に集計。

⁴⁾ みやぎ水産NAVI(https://suisan-navi.pref.miyagi.jp/mizuage_top)による水揚げデータを基に集計。

2. 津軽海峡～道南太平洋海域(小型いか釣り、定置網)

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沿岸域を北上する群れと津軽海峡を通過して来遊する日本海由来の群れが含まれると考えられる。津軽海峡東口周辺海域(41°N以北、143°E以西)におけるいか釣り調査CPUEは漁獲が無かったため前年を下回った。6月に函館港に水揚げした小型いか釣り漁船CPUE(1日1隻当たり漁獲量)は前年を下回った。一方、「1.常磐～三陸海域」で記述した通り、太平洋沿岸域を北上する群れの来遊量は前年並、日本海由来の来遊量は前年を下回ると予測される。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測される(前年の漁獲量は近年5年平均を下回った)。

3. 道東太平洋海域(小型いか釣り、底びき網)

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合域を北上する群れと考えられる。沖合域(143°E以东)におけるいか釣り調査CPUEは前年を上回ったものの、漁獲尾数は僅か2尾と低い水準であったことから、道東太平洋海域へのスルメイカの来遊量は前年並と予測される(前年の漁獲量は近年5年平均を下回った)。親潮第1分枝の張り出しはやや北偏で推移し⁵⁾、釧路以西の道東沿岸域の水温は前年より高くなると予測されている(図4、水産研究・教育機構の海況予測システムFRA-ROMSII⁶⁾)。したがって、釧路以西への来遊の条件は良いと考えられるものの、調査CPUEは過去の推移の中でも低い水準にあることから、漁場形成は散発的で、明瞭な主漁期はないと予測される。

⁵⁾ 2024年度第3回東北海区海況予報(https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/pr2024/fri_20240730_tohoku-3rd.html)

⁶⁾ 国立研究開発法人 水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始した海況予測システム(<https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/index.html>)

II 調査結果

1. 太平洋第1次スルメイカ漁場一斉調査

5月下旬～6月下旬に太平洋で実施されたいか釣り調査の結果、全56調査点のうち有漁点は僅か2点であり（昨年は全53調査点のうち有漁点は2点）、調査海域全体の有漁点割合は前年並であった（本年4%、前年4%）。調査海域全体の平均CPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は0.001尾と前年並（前年0.002尾、前年比87%）であり、極めて低い水準で推移した（図1、2）。海域別にみると、三陸周辺海域では0尾であり、前年同様漁獲がなかった。津軽海峡～道南太平洋海域も0尾であり、平均CPUEは前年を下回った（前年0.01尾、前年比0%）。沖合域では0.002尾と前年を上回ったものの（前年0.001尾、前年比160%）、漁獲尾数は2尾であり、前年に引き続き低い水準で推移した。

沖合域で外套背長が10cmと14cmのスルメイカが1尾ずつ漁獲された。なお、前年は津軽海峡～道南太平洋海域で17cm、沖合域で12cmのスルメイカがそれぞれ1尾漁獲された（図3）。

2. 日本海スルメイカ漁場一斉調査（2024年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報の結果より引用・改編）

6月中旬～7月上旬に津軽海峡西口周辺海域（39°N～42°N、138°E～140°E）で実施されたいか釣り調査の結果、平均CPUEは0.14尾であり、前年（0.57尾）を下回った。2019年～2024年の平均CPUEは、それ以前と比較して非常に低い水準となった（例えば、2010年～2018年平均は11.17尾であったのに対し、2019年～2024年平均は0.70尾）。

3. 移行域幼稚魚調査（参考情報として掲載）

5月上旬～6月上旬に常磐～三陸沖の太平洋で実施された表層トロールネットによる調査の結果、外套背長10cm未満のスルメイカの平均CPUE（30分曳網当たり漁獲尾数）は0.4尾で、前年（1.1尾）を下回った（図5）。また、全調査点のうち有漁点の割合は15%であり、前年（29%）を下回った。漁獲物の外套背長組成は2～5cmの割合が高く、前年（3～5cm）並であった（図6）。本調査で採集された群れは、本予報期間後半に漁場へ来遊する可能性があるが、CPUEは前年を下回っており（前年比39%）、漁場への来遊の寄与としては大きくないと考えられる。

III 各海域の漁況経過

2007年～2015年の太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）における年間漁獲量¹⁾は7万～16万トンで推移していたが、2016年以降大きく減少し、2023年は1.2万トンであった（図7）。主漁場は常磐以北の太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域および道東太平洋海域に区分される。太平洋海域での2023年8月～9月の漁獲量（生鮮）は5.4千トンであり、そのうち常磐～三陸海域では4.8千トン、津軽海峡～道南太平洋海域では0.4千トン、道東太平洋海域では0.1千トンであった（図8）。近年5年（2019年～2023年）平均との比は、常磐～三陸海域では97%、津軽海峡～道南太平洋海域では41%、道東太平洋海域では25%であった。なお、根室海峡～オホーツク海と千葉県以南の海域の漁獲量はそれぞれ144トンと7トンであった。

2024年5月～6月の太平洋沿岸主要港での水揚量²⁾（生鮮：速報値、一部未集計）は501トンで、前年（692トン）を下回った。常磐～三陸海域の主要港では473トンで、前年（623トン）を下回った。津軽海峡～道南太平洋海域の主要港では12トンで、前年（50トン）を下回った。千葉県以南では16トンで、前年並（19トン）であった。なお、参画道県における代表的な漁況経過を表1に示した。

¹⁾ 主要港漁獲量を漁業・養殖業生産統計年報の値で引き延ばしているため図7、図8を含めた漁獲量は全て推定値。

²⁾ 水揚量は単純積み上げた数値。

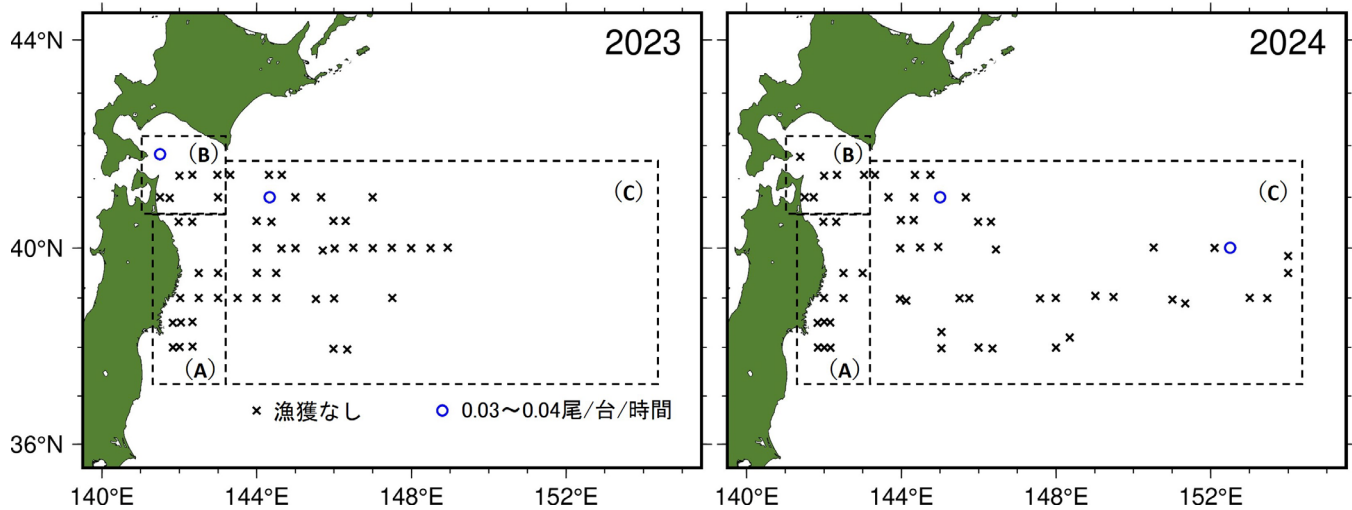


図1. 2023年、2024年5月下旬～6月下旬の太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布
 ○は0.03～0.04尾/台/時間の有漁点、×は漁獲無しを表す。破線で囲まれた海域は
 (A) 三陸周辺海域、(B) 津軽海峡～道南太平洋海域、(C) 沖合域を示す

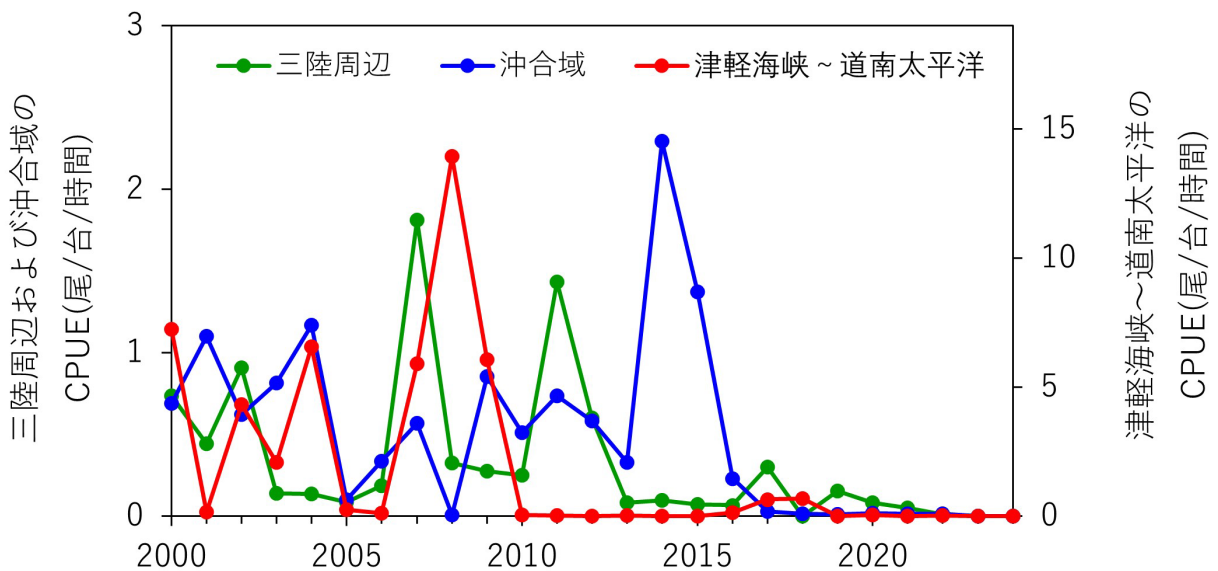


図2. 太平洋におけるいか釣り調査による海域別CPUEの年推移

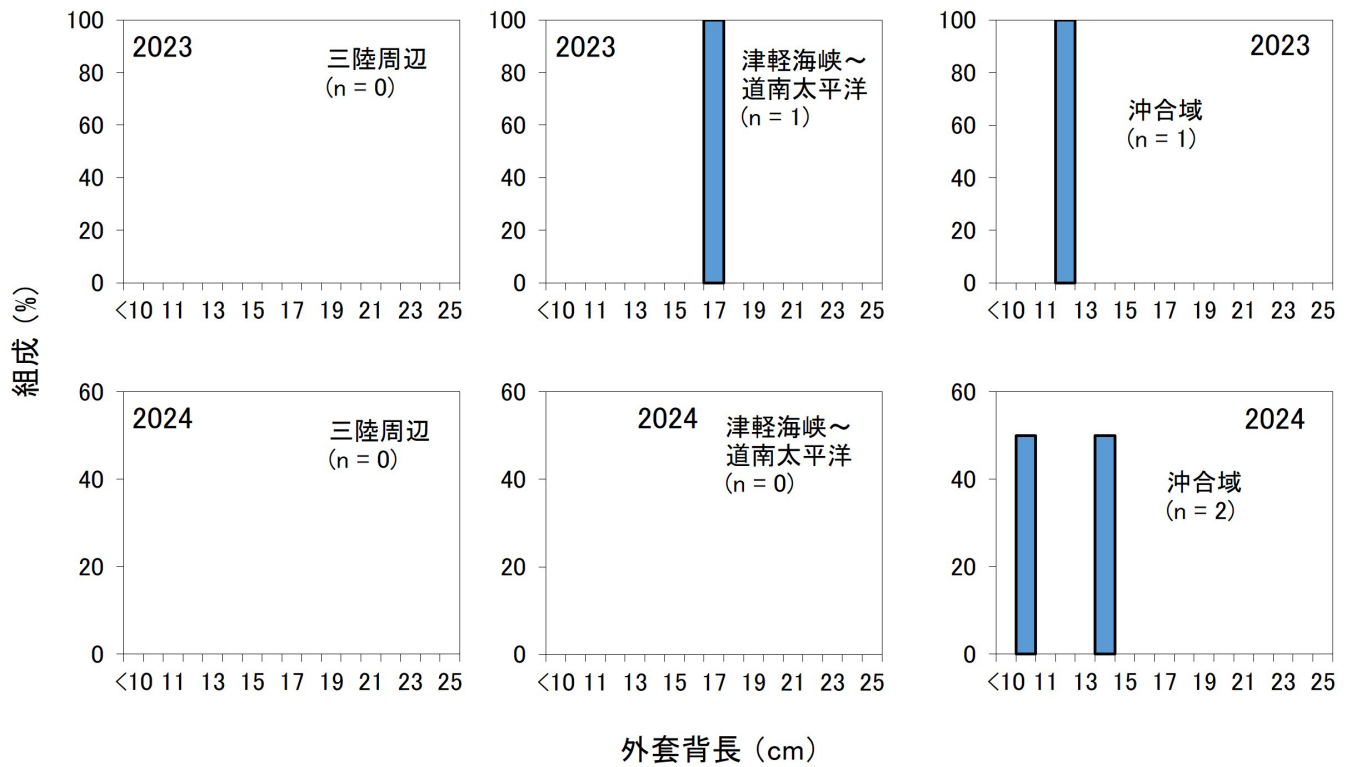


図3. 太平洋におけるいか釣り調査（三陸周辺海域・津軽海峡～道南太平洋海域・沖合域）で採集されたスルメイカの外套背長組成
nは測定尾数を示す

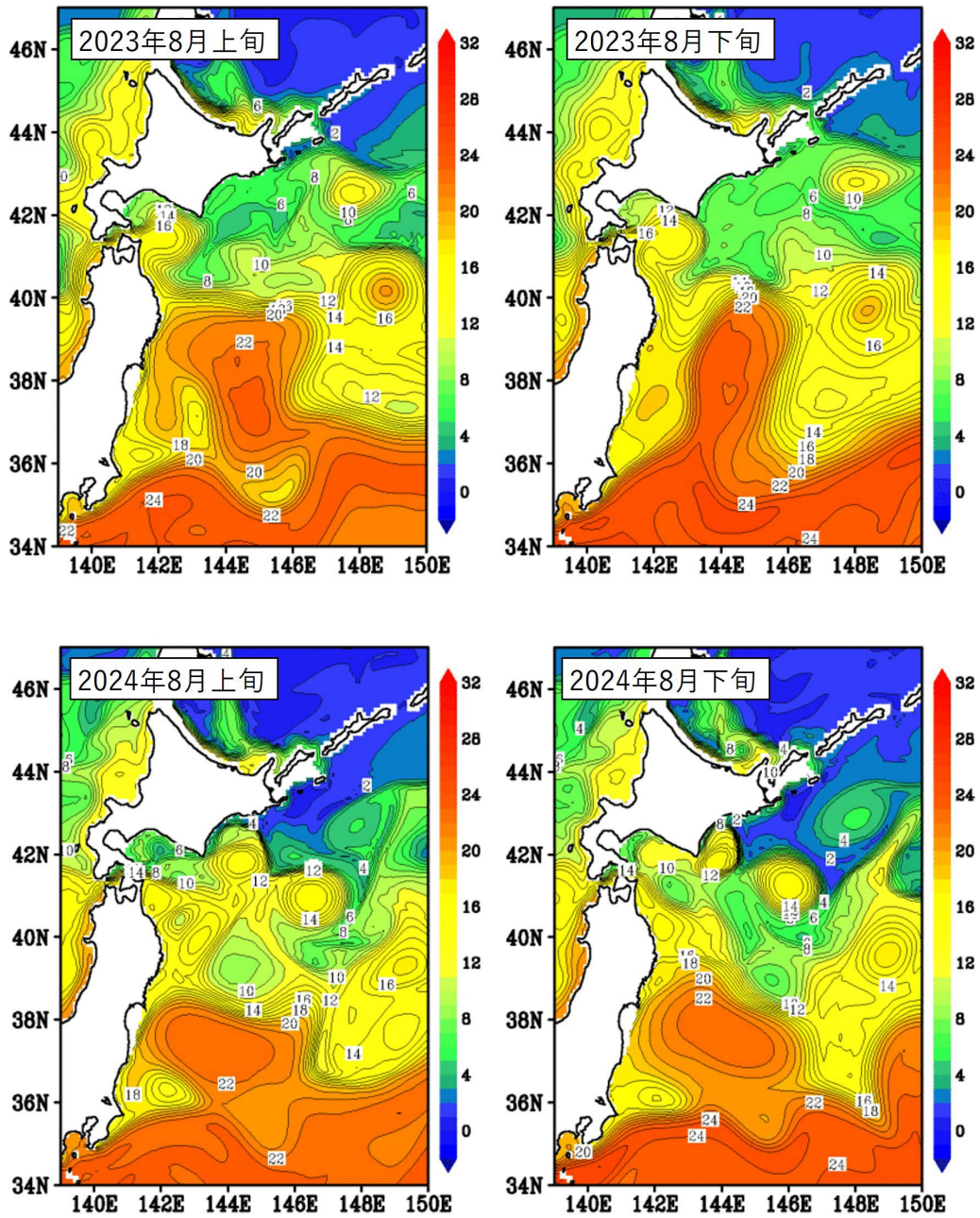


図4. 海況予測システムFRA-ROMSIIによる2023年、2024年の8月上旬と下旬の深度50mにおける水温
 2024年は予測水温であり、2024年7月24日にHPより取得した
 深度50mはスルメイカの代表的な分布深度

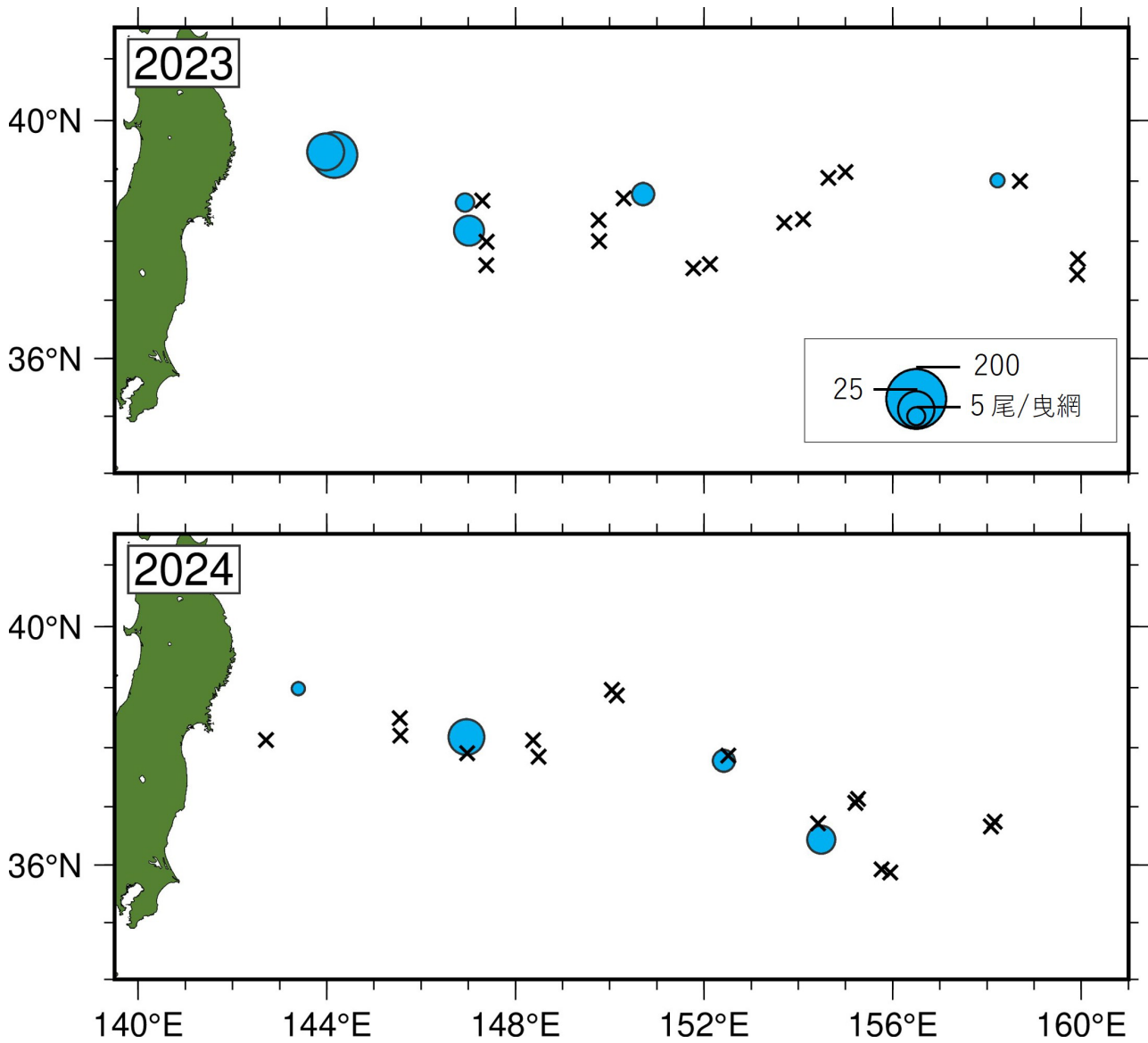


図5. 2023年、2024年5月上旬～6月上旬の太平洋における表層トロールネット移行域幼稚魚調査によるスルメイカのCPUE（30分曳網当たり漁獲尾数）の分布
 ×は漁獲が無かった点を示す

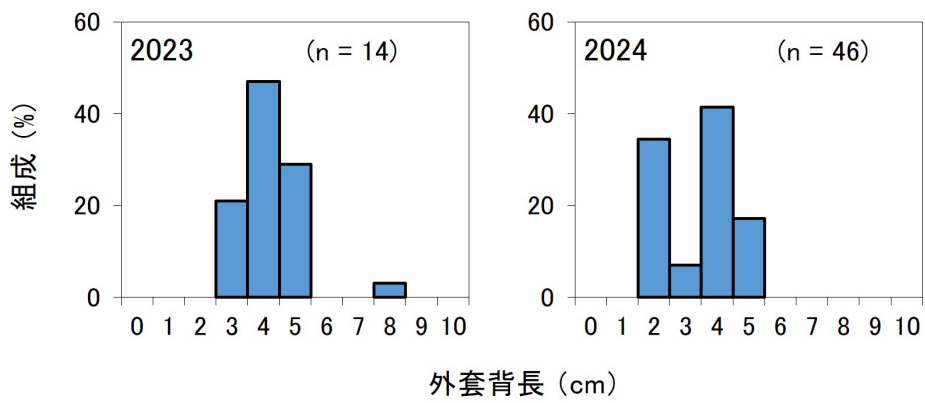


図6. 2023年、2024年5月上旬～6月上旬の太平洋における表層トロールネット移行域幼稚魚調査で採集されたスルメイカの外套背長組成

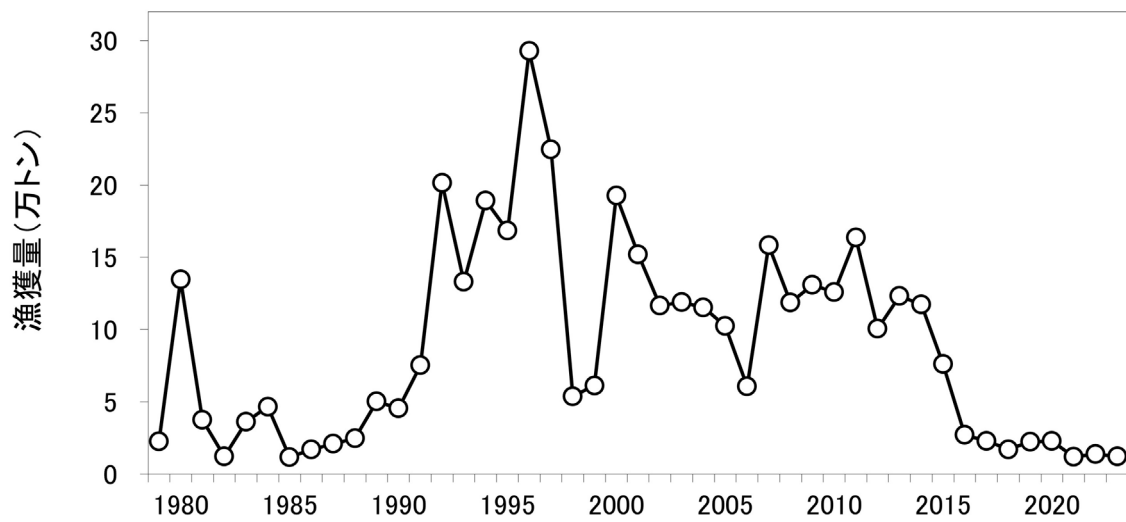


図7. 太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）におけるスルメイカの漁獲量（全漁業の暦年集計）の年推移

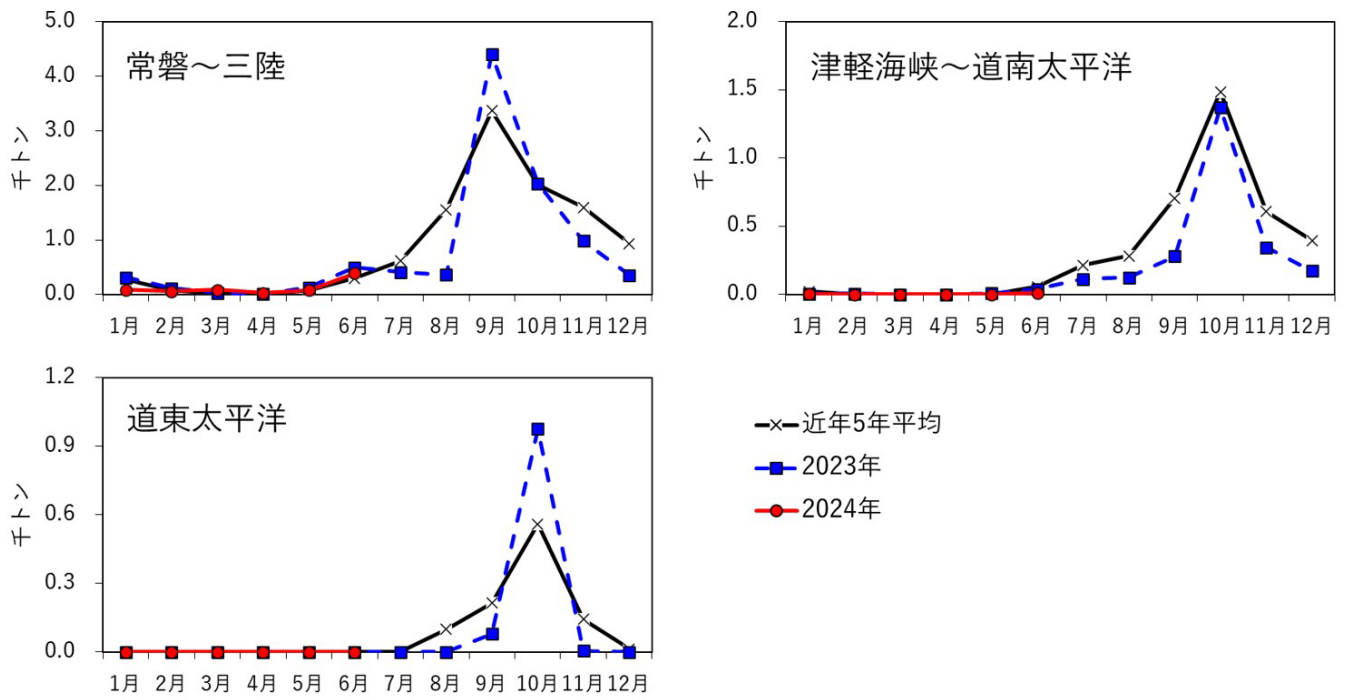


図8. スルメイカの月別海域別の漁獲量（生鮮）
 近年5年平均は2019年～2023年の平均
 （小型いか釣り・底びき網・定置網・まき網）

表1. 漁況経過 (2024年5月～7月、一部未集計・暫定データ含む)

	漁況経過
北海道 道東	5月に網走の定置網で3 kgの水揚げがあった。 7月24日の時点で釣りによる初水揚げはまだない（前年は9月13日に釧路で釣りによる初水揚げがあった）。
北海道 道南	6月の函館港への釣りによる水揚量は7トンであった（前年は13トン）。CPUEは前年比71%であった。また、漁業情報サービスセンターのスルメイカ漁況・市況情報によると、7月上旬の水揚量は7トンであった（前年は7トン）。
青森	6月の白糠港への釣りによる水揚量は11トン（前年は24トン）、CPUEは前年比76%であった。6月の大畑港への釣りによる水揚量は25 kg（前年は480 kg）、CPUEは前年比47%であった。6月の八戸港への釣りによる水揚量は160 kg（前年は355 kg）、CPUEは前年比63%であった。底びき網による水揚量は45トンであった（前年は94トン）。
岩手	6月の主要7港への釣りによる水揚げは0.6トンであった（前年は5.3トン）。底びき網による水揚量は38 kg（前年は11 kg）、定置網による水揚量は59トンだった（前年は74トン）。また、いわて大漁ナビの市況データによると、7月上旬の定置網の水揚量は24トン（前年は13トン）、釣りによる水揚げ量は6トン（前年は8トン）であった。
宮城	6月の主要10港への底びき網による水揚量は164トンであった（前年は144トン）。定置網による水揚量は14トンであった（前年は13トン）。釣りによる水揚げはなかった（前年は5 kg）。また、みやぎ水産NAVIの水揚データによると、7月上旬の石巻港への底びき網による水揚量は42トンであった（前年は11トン）。
福島	5月～6月の主要4港への沖合底びき網による水揚量は17トン（前年は19トン）、小型底びき網による水揚量は1.0トンであった（前年は0.5トン）。
茨城	5月～6月の主要4港への沖合底びき網による水揚量は0.9トン（前年は1.3トン）、小型底びき網による水揚量は0.9トンであった（前年は1.3トン）。
千葉	5月～6月の主要3港への定置網による水揚量は3.9トン（前年は0.3トン）、釣りによる水揚げはなかった（前年は0.4 kg）。
神奈川	5月～6月の主要2港への定置網による水揚量は9 kgであった（前年は83 kg）。
静岡	5月～6月の仁科浜港への釣りによる水揚量は89 kgであった（前年は29 kg）。
三重	5月～6月の奈屋浦港への中型まき網による水揚量は95 kg（前年は401 kg）、主要2港への定置網による水揚量は182 kgであった（前年は36 kg）。
和歌山	6月のすさみ港への釣りによる水揚げはなかった（前年は水揚げ無し）。
高知	5月～6月の主要2港への定置網による水揚げは5.7トンであった（前年は0.4トン）。

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	静岡県水産・海洋技術研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	三重県水産研究所
岩手県水産技術センター	和歌山県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	高知県水産試験場
福島県水産資源研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	(取りまとめ機関)
千葉県水産総合研究センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
神奈川県水産技術センター	